

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年10月24日

No.4

組合: 組合員は要員不足の中、災害対応に奮闘している!

その苦勞に報いるために満額で応えよ!

会社: 災害対応への協力を改めて感謝する。

状況は厳しいが収入確保にむけて努力する。

～2018年度 第2回年末手当交渉報告～

中央本部は、本日第2回年末手当交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ①この間の災害において、代行輸送や迂回輸送など、様々な対応をしていただいたことに改めて感謝申し上げます。
- ②上半期の4・5月は比較的好調であったが、第二四半期に入り災害の影響により多くの列車が運休となり、コンテナ、車扱を含め全ての品目で減収となった。災害による直接的な減収は約100億円、代行経費は精査中であるが20～30億程度である。
- ③今回の一連の災害により、一部荷主からはリスク管理から鉄道貨物輸送へのシェアを下げたり、鉄道から撤退する企業もあり、復旧してもすぐに元の輸送量には戻らない。厳しい状況であるが引き続き収入確保を進める。

【関連事業部門】

- ①関連事業は上半期について目標を達成することができた。10月期改定計画については、事業開発部門335億円（関連事業203.4億円、鉄道事業131.8億円）の改定となった。
- ②改定計画を達成するために、現在進行している開発等を着実に推進することを通じて、増収に取り組んでいくこととする。

【組合の主張】

- ①上半期に大きな災害が続いたことは事実であるが、災害は毎年発生するものである。要員不足の中で我々は会社から迂回輸送などの施策に対して、組合員は苦勞しながら担ってきた。再開後も少しでも稼ぐために私たちは努力をしている。
- ②上半期の減収は分かったが、下半期にどう挽回するかビジョンが示されていない。申入れでも述べたが、災害減収を年末手当の抑制で乗り切ろうとすることには改めて反対する。組合員は今も尽力している。組合員の努力に対して感謝の言葉ではなく、要求満額で報いることを求める。
- ③職場への激励には感謝するが、経営陣は鉄道貨物ネットワークの確保のために国や省に対して、支援や補助を働きかけるべきである。

【会社の回答】

- ①組合の指摘については真摯に受け止める。営業施策を進めることで収入確保にむけて最大限努力する。
- ②組合員が収入確保に奮闘していることは理解している。組合の主張については真摯に受け止めて今後交渉を積み重ねていきたい。

中央本部は、「経営陣は、組合員の期待と対して責任をもって年末手当の要求に満額で応えること」を主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、10月30日（火）です。